

<基本情報①(自治体情報)>

都道府県市名 政令都市名	青森県		
高校入試 担当部署名	学校教育課高等学校指導グループ		
TEL	017-734-9883	FAX	017-734-8270
URL			

<基本情報②(担当した有志の会メンバー情報)>

調査担当者名	吉田 美穂	(所属: 弘前大学教育学部多文化リソースルーム)
--------	-------	---------------------------

この色のセルは、昨年度と表記方法を変えた設問です。

この色のセルは、今年度新しい設問です。

<全国一覧掲載情報>

	I 全日制高校について						II 定時制高校について					
	A.外国人生徒		B.中国・サハリン帰国生徒		C.海外帰国生徒		D.外国人生徒		E.中国・サハリン帰国生徒		F.海外帰国生徒	
	A2-1.措置	A3-1.枠	B2-1.措置	B3-1.枠	C2-1.措置	C3-1.枠	D2-1.措置	D3-1.枠	E2-1.措置	E3-1.枠	F2-1.措置	F3-1.枠
1. 設置されているか(2-1、3-1と一致)	△	×	△	×	△	×	△	×	△	×	△	×
2. 国籍要件の有無	なし		なし		なし		なし		なし		なし	
3. 定員の確保がされているか(3-5の記入欄番号①②から1つ選択)												

I 全日制高校について			
	A.外国人生徒	B.中国・サハリン帰国生徒	C.海外帰国生徒
1.2021年度中について、当該項目の生徒の在籍の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択	有	把握せず	把握せず
2-1.2022年度の一般入試において、当該項目の生徒の受けられる入試特別措置の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質受けられる、等)の場合は「2-1の備考」に明記	△	△	△
2-1の名称			
2-1の備考 2-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記	要項に明記されていないが実質受けられる	要項に明記されていないが実質受けられる	要項に明記されていないが実質受けられる
2-2.滞日年数制限	なし	なし	なし
2-3.措置の内容	海外帰国生徒の扱いを援用している	海外帰国生徒の扱いを援用している	出願について ア 県内在住者 一般出願者と同じ イ 海外在住者 他都道府県からの出願と同じ手続きによる 選抜について 選抜に当たっては海外経験を十分考慮して行う。
2-4.2021年度の入試において、当該の措置で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)していますか? ※有・無・把握せずから1つ選択	把握せず	把握せず	把握せず

2021年度実施(2022年度入試)調査票

3-1.2022年度の入試において、当該項目の生徒を対象とした特別入学枠の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質対象となる、等)の場合は「3-1の備考」に明記		×	×	×
3-1の名称				
3-1の備考 3-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記				
3-2.滞日年数制限				
3-3.入学枠のある学校数/全学校数				
3-4.学校名				
3-5.定員 ※該当する方のみ記入	①定員内(枠内)			
	②定員外(枠外)			
3-6.特別枠の定員数は明確となっており、かつその数まで合格を認めているか (定員数内で不合格を出さない内規等があるか) ※○×から1つ選択				
3-7.試験内容				
3-8.2021年度の入試において、当該の枠で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)していますか? ※有・無・把握せずから1つ選択				
その他補足事項 ※措置や枠がある地域については、2021年度の入試別の受験者数・合格者数、その他事項などを記入		基準は設けていないが、外国人生徒等の受検に当たっては、可能な範囲で必要な配慮を行う。事前相談が必要。	基準は設けていないが、外国人生徒等の受検に当たっては、可能な範囲で必要な配慮を行う。事前相談が必要。	基準は設けていないが、外国人生徒等の受検に当たっては、可能な範囲で必要な配慮を行う。事前相談が必要。

II 定時制高校について		D.外国人生徒	E.中国・サハリン帰国生徒	F.海外帰国生徒
1.2021年度中について、当該項目の生徒の在籍の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択		有	把握せず	把握せず
2-1.2022年度の一般入試において、当該項目の生徒の受けられる入試特別措置の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質受けられる、等)の場合は「2-1の備考」に明記		△	△	△
2-1の名称				
2-1の備考 2-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記		要項に明記されていないが実質受けられる	要項に明記されていないが実質受けられる	要項に明記されていないが実質受けられる
2-2.滞日年数制限		なし	なし	なし
2-3.措置の内容		海外帰国生徒の扱いを援用している	海外帰国生徒の扱いを援用している	出願について ア 県内在住者 一般出願者と同じ イ 海外在住者 他都道府県からの出願と同じ手続きによる 選抜について 選抜に当たっては海外経験を十分考慮して行う。
2-4.2021年度の入試において、当該の措置で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)しているか? ※有・無・把握せずから1つ選択		把握せず	把握せず	把握せず
3-1.2022年度の入試において、当該項目の生徒を対象とした特別入学枠の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質対象となる、等)の場合は「3-1の備考」に明記		×	×	×
3-1の名称				
3-1の備考 3-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記				
3-2.滞日年数制限				
3-3.入学枠のある学校数/全学校数				
3-4.学校名				
3-5.定員 ※該当する方のみ記入	①定員内(枠内)			
	②定員外(枠外)			
3-6.特別枠の定員数は明確となっており、かつその数まで合格を認めているか (定員数内で不合格を出さない内規等があるか) ※○×から1つ選択				
3-7.試験内容				
3-8.2021年度の入試において、当該の枠で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)していますか? ※有・無・把握せずから1つ選択				
その他補足事項 ※措置や枠がある地域については、2021年度の入試別の受験者数・合格者数、その他事項などを記入		基準は設けていないが、外国人生徒等の受検に当たっては、可能な範囲で必要な配慮を行う。事前相談が必要。	基準は設けていないが、外国人生徒等の受検に当たっては、可能な範囲で必要な配慮を行う。事前相談が必要。	基準は設けていないが、外国人生徒等の受検に当たっては、可能な範囲で必要な配慮を行う。事前相談が必要。

Ⅲ 高校入学後の状況

1.日本語指導が必要な生徒に対して、入学後の日本語や教科の支援(補習等)にかかわる当該自治体の施策の有無 ※有・無から1つ選択	有	
2.有の場合、その施策の具体的な内容 ※該当する項目にチェック	<input type="checkbox"/>	A.教育課程に位置づけられた日本語授業(学校設定科目や個別対応授業など単位として認定されるもの)の実施
	<input type="checkbox"/>	B.教科学習において個別対応や習熟度別の授業を実施
	<input type="checkbox"/>	C.母語(継承語)保持のための授業の実施
	<input type="checkbox"/>	D.担当教員の加配
	<input type="checkbox"/>	E.日本語の授業などの講師や支援者の雇用
	<input type="checkbox"/>	F.母語(継承語)の支援のための講師や支援者の雇用
	<input type="checkbox"/>	G.その他外部支援者(コーディネーターなど)の雇用
	<input checked="" type="checkbox"/>	H.日本語指導が必要な生徒を対象としたキャリア教育(出口支援)
	その他の施策	携帯用翻訳機の貸出。 文部科学省委託事業により、弘前大学教育学部多文化リソースルームよりアドバイザーと支援員を各校に派遣。
上記に該当する実施校の校数等	3校	
補足事項		
3.自治体の施策ではないが、各学校で個別に実施していることがあれば記入		
4.2021年度の入試において、海外で中学相当(学校教育における9年の課程)を修了し、来日後直接高校受検(受験)した者の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択、有りの場合はその人数も記入	無	
5.2020年度中に、直接来日後による編入学者の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択、有りの場合は、その人数も記入	無	

IV日本国内にある外国学校からの入学について

	↓記入欄	備考
1-1.各種学校の認可を得た外国学校の中等部の卒業生について、高校受験(受検)者資格を認めているか否か ただし、中卒認定試験の合格を以って認めている場合は除く。 ※認めているは○印、認めていないは×印のいずれかで記入し、認めていない場合はその理由を備考に記入。検討中あるいは未決定の場合は△を記入し、備考に明記	△	青森県立高等学校出願資格による。(個々の状況で確認し判断する。)
1-2. 1-1で認めている場合 ※①～④からいずれかを選択 ①外国学校中等部の卒業生には、そのまま他の生徒と同様に高校入学選抜の受験(受検)を認めている(外国学校の指定その他の条件を付している場合はその条件を記載) ②学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認を、中卒認定試験・外国人特別入試等とは別途、高校入試に先立って行っている。 ③上記②を実施しておらず、外国人特別入試等を実施し、この合格をもって学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認としている。 ④その他(方法を備考欄に記入)	①	
2-1.各種学校ではないが、本国政府の認可を得た外国学校の中等部の卒業生について、高校受験(受検)者資格を認めているか否か ただし、中卒認定試験の合格を以って認めている場合は除く。 ※認めているは○印、認めていないは×印のいずれかで記入し、認めていない場合はその理由を備考に記入。検討中あるいは未決定の場合は△を記入し、備考に明記	△	青森県立高等学校出願資格による。(個々の状況で確認し判断する。)
2-2. 2-1で認めている場合 ※①～④からいずれかを選択 ①外国学校中等部の卒業生には、そのまま他の生徒と同様に高校入学選抜の受験(受検)を認めている(外国学校の指定その他の条件を付している場合はその条件を記載) ②学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認を、中卒認定試験・外国人特別入試等とは別途、高校入試に先立って行っている。 ③上記②を実施しておらず、外国人特別入試等を実施し、この合格をもって学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認としている。 ④その他(方法を備考欄に記入)	①	
3.上記のⅠⅡ特別措置と入学枠での滞日年数制限について、日本国内にある外国学校の在籍期間は、日本での在在期間に含むか否か ※日本での滞在期間に含むは「含む」、滞在期間に含めないは「含めない」のいずれかで記入		
4.外国学校の中等部の卒業生について、2021年度入試において受験(受検)希望があったか ※あった場合「有」を記入、備考にその人数を記入。なかった場合は「無」を記入。把握していない場合は「把握せず」	無	

V 調査した人からのコメントや関係者の皆さんへお知らせ ※各地域を担当されている皆さんだから知っている地域情報を、皆さんの視点からご記入いただきたいです。 「他地域から皆さんが担当する地域に引越し予定をしている中2の外国人生徒とその保護者に伝えたい情報」という想定で、いずれも公開されている情報について、ご無理のない範囲で、ご記入ください。	
1.日本語指導が必要な生徒の状況について、支援者の立場から、高校受験(受験)や高校進学に困難なケースや高校入試及び入学後の支援に関して課題と感じていること 高校入試や高校入学後の支援に関して、教育委員会や高校に期待すること	外国につながる子どもの学習については個人差も大きく、なかには進学できた生徒もいるが、日本語力の不足から通常の受験では進学が困難な事例、あるいは日本語学習には適していない通信制に進学せざるを得ないようなケースが存在している。 高校入試において特別枠の設置を検討してほしい。また、特別措置の内容についても明記が望ましいと考える。そして、入学後は、個別対応が受けられるよう教員の加配や支援員の配置が行われるような制度的な整備を進めていただきたい。
2.日本語指導が必要な生徒を受け入れている私立高校の情報や課題など	NPO法人みちのく国際日本語教育センターの支援を受けていた子どもが、近隣の私立高校に入学している実態はある。 特別枠等による入学ではなく、入学後の支援体制は不明である。
3.外国人生徒の高校入試などについて、近くで相談できるところ ※担当地域内の団体名やURLなどを記入ください	弘前大学教育学部多文化リソースルーム https://home.hirosaki-u.ac.jp/tabunka/ ホームページから問い合わせや相談ができます。 青森県教育庁学校教育課 高等学校指導グループ 電話等での事前相談 電話 017-734-9883 NPO法人みちのく国際日本語教育センター https://michinoku-nihongo.jimdofree.com/
4.多言語による関連情報 ※担当地域の自治体やNPOなどで公開されているものがあれば、URLなどを記入ください。	青森県国際交流協会外国人相談窓口 http://www.kokusai-koryu.jp/foreigners/consulting-service-counter/ 弘前大学教育学部多文化リソースルーム主催で、通訳付きの高校進学ガイダンスを2021年度より開催(予定) https://home.hirosaki-u.ac.jp/tabunka/category/whats-new/
5.その他 ※「こんな情報もあるよ!」ということ、メッセージや助言などがあれば、調査した人からの目線でぜひご記入ください。なお、そのままホームページには掲載致しません。	青森県では、弘前市教育委員会が小中学校に日本語支援員が配置しています。八戸市には、日本語を母語としない子どもを対象に学習支援を行っているNPO法人みちのく国際日本語教育センターがあり、周辺のいくつかの市町村の学校に日本語指導員を派遣しています。また、弘前大学教育学部多文化リソースルームは、青森市などの小中学校、青森県立高校に日本語支援員や母語支援員を派遣しています。青森県における子どもへの日本語支援は、少しずつ拡充されてきています。上記の団体等に、ぜひ問い合わせてみてください。